

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	岡山県	事業実施主体	岡山県、倉敷市、井原市、矢掛町	地域再生計画名	旧山陽道を軸とした にぎわい再生による地域づくり計画
計画期間	平成23年度から平成29年度	評価責任者	岡山県 農林水産部長 倉敷市 土木部長 井原市 建設部長 矢掛町 建設課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績				
	指標1	渋滞時の井原市中心部と倉敷市中心部間の走行時間短縮	68分	H23			59分	H29	58分	○	市道整備を一体的に行ったことにより、交通障害が解消され、走行時間の短縮となり、目標値を達成出来た。
	指標2	地域間交流の増加（主要幹線道路の日交通量の増加）	12,500台/日	H23			13,000台/日	H29	12,800台/日	△	国道486号線にアクセスする、市道、町道、広域農道を一体的に整備したことにより、交通の利便性が向上し、相互の交流が盛んとなり、交通量は微増したが、現状では目標を若干下回った。
	指標3	観光交流の増加（主要観光施設の来場者数の増加）	724,900人/年	H23			788,300人/年	H29	660,300人/年	△	県全体の観光客数が平成23年から平成25年に落ち込んでいたが、平成26年程度から徐々に観光客数は回復傾向である。本地区では井原市道及び広域農道の一部が供用開始した平成26年以降、徐々にではあるが観光客数は回復しているため事業効果は認められるが、主要観光施設での観光客数の増加目標値を下回っている。
	指標4	交通障害箇所の解消3箇所（倉敷地区1箇所、井原地区1箇所、矢掛地区1箇所）	3箇所	H23			0箇所	H29	0箇所	○	市道の改良により、交通障害は改善し目標を達成出来た。
	指標5	農産物の物流の効率化（集荷時間の短縮37%）（市場への出荷に要する時間の短縮10%）	集荷時間の短縮65分 市場への出荷時間短縮95分	H23			41分 85分	H29	— 79分	○	集荷時間の短縮効果に関しては、広域農道の一部が供用開始出来ていないため、実測計測は出来ないが、供用区間部の実測時間36分と未供用区間L=2.7kmを設計速度40km/hで割ると、約4分となるので、合計で40分となり、推定時間では目標値はクリアするが、最終実績値は、広域農道が全線供用開始しないと、実測値は計測出来ない。市場への出荷時間に関しては、市道、広域農道の整備により円滑な集出荷を行うことが出来たため、目標を達成出来た。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1	葡萄浪漫館の売上額（井原市）	17.2億	H23			20.6億	H29			広域農道の供用開始延長の増に伴い、来場者の交通の便が良くなり、また生産者の運搬が容易になったため、売上げが順調に伸びている。
	指標2	芳井町特産品直売所の売上額（井原市）	0.17億	H23			0.32億	H29			井原市の改良した市道迫崎線の近くにある、農家の方が組合を作って商品を持ち込み販売している農産物直売所。市道の改良、広域農道の供用開始延長が増えている等の要因により、アクセス及び集出荷が容易になったため売上げは順調に伸びている。
	指標3	農産物直売所さきりの売上額（矢掛町）	1.5億	H22			1.9億	H29			矢掛町の国道486号線沿いにある、JAの農産物直売所であるが、地域住民からのアクセスが容易になったため、売上げが順調に伸びている。
	指標4	倉敷市美観地区の観光客数（倉敷市）	3,032(千人)	H23			3,648(千人)	H29			倉敷市美観地区全体としての観光客数は、市街地への接続道の整備、渋滞緩和の各種施策を行ったために、順調に増えている。美観地区としては年間を通じて楽しめるように各種イベント等を行っており、美観地区の各観光施設に観光客が分散しているものと推察される。

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	市道 高砂町中島柳井原線	0.85km	0.85km	0.85km	今回の整備により、国道486号線から倉敷市内中心部に向けての、所要時間の短縮効果があった。また、市内主要観光地への観光客増加の為に、倉敷市中心部の渋滞緩和を旨とし、さらなる市道の改良工事を行う必要がある。
	市道 水江146号線	0.25km	0.25km	0.25km	〃
	市道 迫崎線	0.37km	0.37km	0.37km	整備前は付近が狭小であり、線形が悪く大型車のすれ違いが困難であった。路線の整備によりそれらの交障箇所所の改善が図られ、国道313へアクセスが容易に出来るようになり、交通の利便性が図られた。
	町道 青木小迫線	1.56km	1.56km	1.56km	整備前の道路は狭小であり、線形が悪かったため、農耕車の通行が非常に危険であったが、路線の整備によりそれらの交障箇所所の改善が図られたため、農耕車の通行が安全となった。
	広域農道 井原芳井地区	2.52km	1.92km	1.92km	当初に計画された、L=1.92kmの区間は、平成26年度までに整備され、本路線とつながる国道486号線とのアクセスが改善され、農産物の物流の効率化が図られた。今後供用開始区間の増えてくると、さらなる物流の効率化及び地域間交流の促進も期待される。しかしながら、平成27年度に追加したL=0.6km区間については、工事着手後に法面崩壊したため、急遽工法検討を行った結果、法枠工及びグラウンドアンカー工の追加施工が必要となった。そうした理由により、事業費及び工期が不足したため、引き続き事業実施を行いたい。
その他の事業	社会資本整備総合交付金（倉敷市）	高砂町中島柳井原線			本計画に合わせて、歩道の整備を行い、地域住民の市内中心部へのアクセスを容易にした。
	倉敷市中心市街地活性化基本計画（倉敷市）	美観地区の再開発、暮らしやすい町づくり			美観地区の電線類の地中埋化を推進し、町並み景観の整備を行ったり、駅前に公園や緑地、緑道を整備し快適な住環境の維持向上を図った。
	中山間地域総合整備事業（岡山県）	矢掛町全体			矢掛町全体に総合整備事業を行い、町の活性化を目指す。矢掛町としては、生産基盤の強化を目指し、ほ場整備事業、農道の改良を行いさらに農産物の生産性の向上を目指す。
計画外で独自に実施した事業	冬ぶどう品質向上推進事業（井原市）	冬ぶどうの品質向上に向けた実証実験			今後、冬ぶどう「紫苑」の売り上げ増を目指すに当たり、品質価値を高めるために、温度が品質に及ぼす影響調査、市場調査を行い今後の販売拡大に向けた販売戦略を練った。今後は冬ぶどうの栽培面積も順次増やしていく予定である。
	矢掛町ブランド認定事業（矢掛町）	矢掛町ブランドの認定			矢掛町ならではの高い品質をもつ、一次産品、加工品等に対して、「矢掛町ブランド」の認定を行っている。また認められると、矢掛町とともに「矢掛ブランド」を積極的に全国発信することで、地域活性化、観光推進を図る。
	葡萄グローバル産地育成事業（岡山県）	産地育成			首都圏への販路拡大や海外ギフト需要期に合わせた供給力強化のための、面積拡大や定着支援のため遊休園地の有効活用の支援を行う。

④評価方法 県及び関係市町の関係課にて、最終目標値の実現状況に関して評価・検討を行った。

⑤事後評価の公表方法 倉敷市建設局土木部街路課のホームページに掲載。

⑥計画全体の総合評価 本地域再生計画では、道整備交付金を活用して広域農道、各市道及び町道を一体的に実施し、国道486号線へのアクセスを容易に接続するように実施出来たため、中山間部での農業振興や、関係市町から倉敷市との交流人口の増加、また観光人口の増加要因を担っていると考えられる。また、国道486号線付近の農産物販売所等の売り上げが伸びていることから、地域内のみならず倉敷市等からの消費者が新鮮な農産物を購入しているものと推察される。そうした状況をさらに発展させ、本地域での新鮮な農産物の販売・観光客の呼び込みを増加させるためにも、同地域の道路交通網のさらなる発展が必要となると思うので、今後とも国道486号線を軸とした道路網の構築が急がれる。

⑦今後の方針等 ・本地域再生計画の目標である、旧山陽道を軸としたにぎわい再生による地域づくり計画では、国道486号線を軸として倉敷市、井原市、矢掛町の観光・交流に関してはほぼ達成が見込まれる。平成30年度には、矢掛町においては国道486号線沿いに道の駅をオープンし、さらに今後同町の農業体験施設「水車の里 フルーツピア」へのアクセス道の整備を行う予定であり、同地域の発展に一役買うものと思われる。井原市においては、今後ぶどうを矢掛町の「水車の里 フルーツピア」で販売する予定であるので、早期に広域農道の全線開通を行い、井原市から矢掛町に対しての農産物の集出荷交通網の整備の構築が急がれる。また倉敷市においては、倉敷市中心市街地活性化基本計画の推進を行い、市内の渋滞緩和及び美観地区の周辺の歴史ある景観をまもり育て、県内、県外からの観光客の積極的な誘致を行いたいと考えている。